

## 首都機能移転県民フォーラム（栃木地区）の開催結果の概要について

### 1. 日時・場所

- ・平成10年8月22日（土）13時00分～16時00分
- ・栃木市「サンプラザ」

### 2. 参加者

- ・コーディネーター（宇都宮大学名誉教授 馬場 信雄 氏）
- ・意見発表者（地区内市町村の各種団体等から）8名
- ・鈴木栃木市長
- ・県議会議員(地元選出) 4名
- ・一般傍聴者、市町村職員等350名
- ・主催者(県民会議幹事長、事務局)

### 3. 意見の概要

#### - 意義などに関する意見 -

- 日本の政治の中心地は歴史上西から東へ移ってきており、東京は江戸幕府からちょうど4世紀を経過しようとしているが、現在あらゆる機能面から一極集中が限界にきている。
- 現在の東京に阪神・淡路大震災のような地震が起きたら、日本の政治と経済は沈没してしまう。よって、政経分離のもとに首都機能移転は絶対に必要である。
- 那須地域は選定基準の全てが満たされており、しかも、広大で平坦な土地を有しており、日本の政治の中心としてだけでなく、国際社会の政治の舞台としても相応しい。そして、自然の美しい新首都には国際的な来賓たちが集い、世界的那須、世界の栃木となれる。
- 日本の政治・経済・文化の繁栄は、西から東へ歴史的に発展してきており、今まさにその繁栄の豊かさの軸が東京から那須に伸びようとしている。
- 首都機能移転による、栃木県の100年、200年、300年先をイメージしてみたが、県民全体が等しくビックなチャンスを与えられることになると思う。
- 首都機能移転が栃木に実現されれば、教育・文化・福祉・国際交流等の面から、県民は心が豊かになれるチャンスに恵まれる。しかし、心の豊かさを作り上げるには経済的な豊かさも必要である。現在日本は不況のどん底だが、首都機能移転により産業の振興・活性化に大きくプラスになる。
- とりわけ関西地区での栃木県の印象は農業県的なイメージしかなく、工業の分野でも全国的に上位なのにそのイメージはない。それは、商売としてはマイナスなことであり、首都機能移転はそれを払拭する絶好のPRの材料になる。
- 狭い東京の一極集中の是正は、今の日本の国家国民の最重要な課題である。
- 自然を生かし、それと共生する中で多極分散型のまちづくりが実現できれば、栃木の価値観は日本の価値観から世界の価値観となり、やがて高い文化の享受ができるようになる。
- 栃木への首都機能移転が実現されれば、直接消費者のニーズに対応できる新しい農業の創造（「首都圏農業」から「首都の農業」へ）ができるようになり、また現在日本の農家は総兼業状態だが、兼業農家の就業機会の拡大にも大きく役立つ。
- 首都機能移転の大きな理由の1つである、東京の過密化の解消は確かに分かるが、那須も東京と同じく既に疲れた感じがする。その理由としては、農産物の自由化によって農業を潰したこと、また黒磯の中学生の事件、観光施設やリゾートホテルの建設等がある。

- 那須地域への首都機能移転が実現すれば、新しいビジネスの発生、雇用の促進、観光地の活性化等、経済的波及効果には計り知れないものがあり、県内の産業構成も大きく様変わりする。

#### -課題に関する意見-

- 人類の歴史は自然破壊の歴史であったが、これからの私たちは、地球家族の一員であるという自覚を持って、新しい都市を建設しなければならない。開発のない経済的な発展は望めないで、科学技術や我々の知恵で、自然とのバランスの取れたまちづくりを考えるべきである。
- 那須の交通アクセスの良さや、美しい自然、また大きな国公有地がある現状を考えれば、確かに移転に適していると言えるが、別の角度からは、噴火の災害、人工増での廃棄物による環境汚染や水供給の心配、また自然破壊など、確かにプラス面は大きいですが、マイナス面も心配される。
- 今までは、自分の住む地区にしか関心がなかったが、フォーラムをきっかけにして色々と意見を聞いたり勉強をし、この問題は県民全員の問題だと思った。
- 新首都には、新しい教育を考える省庁をつくり、その道のエキスパートの育成を重視した、ゆとりある、楽しく学べる教育制度をつくるべきである。そして、少子化、犯罪の低年齢化を防ぐためにも、ゆとりの教育、心の教育が大切である。
- 首都機能移転によって大田原市と同規模か少し大きい規模の都市が多数できた場合、イメージ図のような緑豊かなまちは絶対にありえない。
- 経済的には人やモノの流通によって活発になるだろうが、その反面、人間が置き去りにされていくようになると思う。ゆったり暮らせる栃木県や那須こそを目指していきたい。
- 那須野ヶ原の水と緑に囲まれた様々な条件が揃って初めて、オオタカが住める環境ができ、その条件を壊すような首都機能移転は問題がある。
- 首都機能移転についての様々なPR活動で知ったが、イメージについてはすばらしいと思うが、実際に圏域に住んでいる住民は、東京から何が移ってきて、どう分散して配置されるのかといった具体性が分からない中で不安なのではないか。
- 県南地域は首都機能移転については、政治と経済の間となってしまう変化は何もないといった雰囲気があり、関心が低い。そこで、那須への首都機能移転の計画には県南にもこんなすばらしい計画があるといった、PRが必要である。
- これからの都市づくりは、自然の生態系を守りつつ、自然（那須の場合、代表的な例としてはオオタカが挙げられる）と人との共生をどう推進していくかが肝心であり、無秩序な開発がないよう、関係法令の整備を確立して計画的に開発していく必要がある。
- 先の新聞の首都機能移転に関する県民調査結果によると県民の約半分が消極的な意向を示しており、この結果はイメージばかりが先行し、生活感覚とかけ離れた誘致運動に対する県民の冷静な意思表示であると考えられる。
- 東京都を含む近県の強い反対、財政構造改革による今世紀中の凍結、また少子・高齢化社会を目前にしてインフラ整備の確立も容易でない今、首都機能移転を取り巻いている現状は厳しく、国民的に合意を得ることは大変なことである。
- 首都機能移転に向けての国民的合意のため、行政や経済団体の意見だけではなく、地元住民のコンセンサスを得ることが最も肝心である。

#### -要望に関する意見-

- 日光国立公園としての那須を中心とし、県内全域の交通アクセスを整備し、国内外の多くの人達が、県内の各種名所を訪れるようお願いしたい。
- 新首都には、面積の4分の1以上に幾つかの大規模自然公園を作り、自然に調和した町並みを目指し

てもらいたい。具体的には、建物の高さ制限を設けたり、建ぺい率を25%以下に抑えるなどして、東京のような町にしないでほしい。

- 高校・大学の誘致を要望する。特に総合大学は、東京と新首都の中間点である県南地域にお願いしたい。
- 計画では、福島空港の拡張利用となっているが、近い将来成田・羽田以上の空港が必ず必要になってくると思うので、その時は是非栃木県内につくっていただきたい。
- 一人一人が豊かになれる環境づくりを心がけ、全県民が首都機能移転について理解できる情報を、易しく、たくさん広報していただきたい。
- 那須地方は畜産農家が40%と割合が高く、この対応策として、団地の形成、共同の飼養管理、経営・設備の近代化等が必要であり、これらの指導推進を図っていただきたい。
- 農業で一番重要なのは水の問題であり、この点については真剣に取り組んでいただきたい。
- 渡良瀬遊水池の利用開発が、自然と共生できるような開発によって、那須と連動した形で実現できるよう、強く要望する。
- 首都機能移転が予定されている那須地域は、県民や訪れる全国の人々にとって大きな財産であり、それを21世紀の次の世代に引き継ぐことは私たちの使命であるため、この問題は慎重に進めていくことを望む。
- 実際に移転された場合の問題点（自然環境、水、ゴミ、新住民との交流、現行の市町村の枠組み等）に対して県が考えている具体策について、情報提供をお願いしたい。

#### -意見交換における主な意見（要旨）-

- 首都機能が移転されると、東京と新首都の間の交通量が膨大となり、また、栃木地区には北関東自動車道のジャンクションができるので、お盆のような交通渋滞が予想される。よって、交通量を十分に研究して、住民が交通渋滞に巻き込まれないような環境をお願いしたい。
- 実際に首都機能移転が実現した時の経済効果を県ではどの程度見ているのか知りたい。
- 環境と共生する首都を建設するというが、そのことについてどう責任を持って取り組んでいるのか。
- 新首都建設に伴って、那須野ヶ原の何分の1かは道路等が整備され市街地になり、経済的には豊かになると思う。しかし、本当の豊かさとは、そのようなものなのだろうか。
- 水問題については、那珂川からの取水で間に合うというが、数学的に計算すれば確かにそうかも知れないが、実際は誰にも分からない問題のはずである。
- 中部地方や関西に首都機能が移転されるよりは、県民全体の経済面を初めとする幸福に寄与するために那須への移転が望ましい。
- ワシントン・キャンベラ・ブラジリア等、世界には人工的な都市がたくさんあり、それらの利点はいかようにもデザインできることである。
- 自然との共生や環境問題等のこれから危惧される点は、県民の意見を十分取り入れて新首都づくりに生かしていけばよい。そのためにも、情報の提供が重要であり、県南と県北には関心の濃淡があることでもあるし、県南の住民にも理解できるようなPRが必要である。
- 移転先選定基準の中に「国際的な空港の必要性」があるが、栃木県のパンフレットを見てもほとんど空港には触れておらず、いつまでも福島県に依存しているわけにはいかないため、空港の建設は首都機能移転とセットで考えていただきたい。
- 日本はどこでも環境のすばらしい土地があり、9,000haの土地はどの候補地へ移転されたとしても必要になってくるのだから、近畿地区や中京地区より、那須への移転が望ましい。
- 県南地区の住民の1人としても、何としても栃木県への首都機能移転を実現させるという進取の気持

ちで、栃木を発展させることができる。

- 県民全体のコンセンサスを得ながら、大いなる発展に向かって、県民こぞって誘致のために行動を起こしていきたい。
- 国民の1人として他候補地の中でどこを選ぶかと考えた場合、身びいきを割り引いても那須が一番適地だと思う。
- 首都機能移転は、県民の合意が得られなければ、国民的な合意はもっと困難である。よって、是非とも県民の合意の上で進めていただきたい。
- 自然をそのまま保存するということより、我々が手を加えて共生するという自然保護もあるのではないか。那須もキャンベラのように日本人の最高の頭脳を駆使した新しい人工都市として、国際社会のシンボルステージにしようではないか。
- 首都機能移転については、100年単位の見方と10年単位の見方と2つに区分して考える必要がある。100年単位の判断を間違えれば、二度と戻らないような重大な過ちが発生するが、歴史的に分析すればおのずと分かると思う。10年単位の見方は、人間の知恵を働かせることによって解決する。
- 栃木県は、宮城県・福島県・茨城県の他県と比べると明治維新期の歴史から見て、精神的に弱いような気がするので、国家百年の大計として、しっかり意思決定をして、臆病にならずに進んで首都機能移転に取り組んでいきたい。
- 自然環境は守らなければならないと思うが、1つの事業を実施するにはメリット、デメリットは必ずあるものであり、それを乗り越えていかなければ何事もなし得ない。
- 東京、神奈川、千葉は、首都機能移転に反対の立場だが、西よりは当然北の方へ賛成する人がほとんどだと思う。
- 100年、200年後を見通し、自然環境にも十分配慮しながら、首都機能移転を推進する必要がある。
- 那須街道周辺は、最近乱開発されているが、今度の首都機能移転では、そのようなことは絶対はないと思う。